

日と月の家

- ある島から学んだ愛のかたち -

00 - へだたり

ある1つの島を手がかりとして、愛を探した。愛には、へだたりが必要だった。時には愛しいものと距離が必要なこともあれば、ぴったりと寄り添うときもある。これらの出来事は、ふたつの時間のかたちであった。



ひとつひとつの時間が噛み合うコンセプトドローイング

01 - それぞれの時間

島には、海のもの、山のもの、生き物、人工のもの・・・それぞれの時間が流れており、それらは少しずつ噛み合って存在していた。これらに流れる時間を「それぞれの時間」と呼ぶことにする。

「それぞれの時間」は、いわばその人にとっての自分の時間。1つ1つ歯車の大きさが違うので、ときに距離を置くことを求めてくる。母と子のような距離、犬と飼い主のような距離、ときには愛するがゆえに執着できないほどの距離、想うがゆえに置かなければならない距離・・・それぞれの距離を、保つかたちでなければならない。

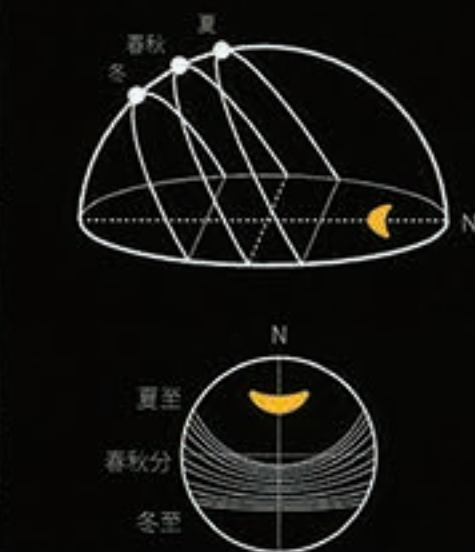


おおきさの違う歯車たち

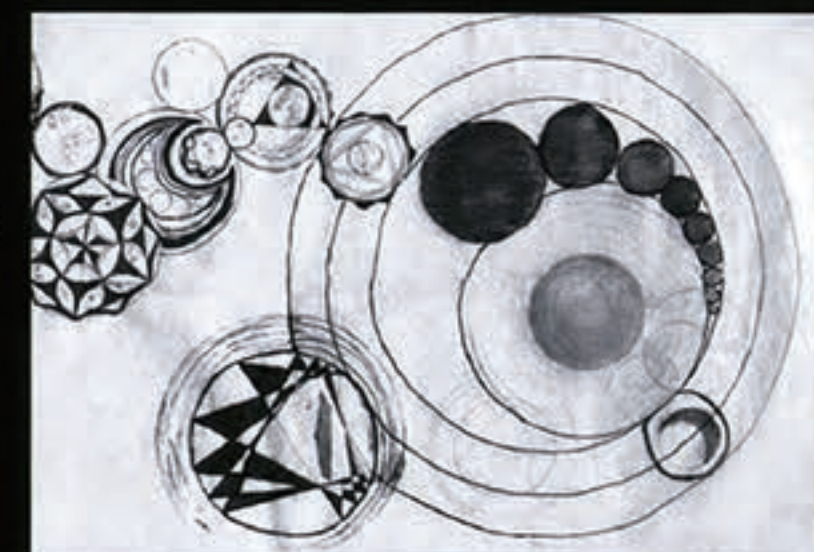
02 - 共通の時間

距離をへだてた中でも、違う場所においても、そこには共通の時間が流れている。太陽と月。島では、夕方のある時刻になるとどの家も、ベランダに腰掛け、同じ方向を乱した。共同体の1つのかたちだった。

朝日が昇ると共に活動してきた私たち。月を眺め、遠くの誰かに想いを馳せる。誰しにも共通に流れる悠久の時間が、わたしたちの心を繋ぎ止める。月と日を眺めるための見台を軌道に沿った形に設けた。



太陽の軌道



「月日」として流れる大きな歯車

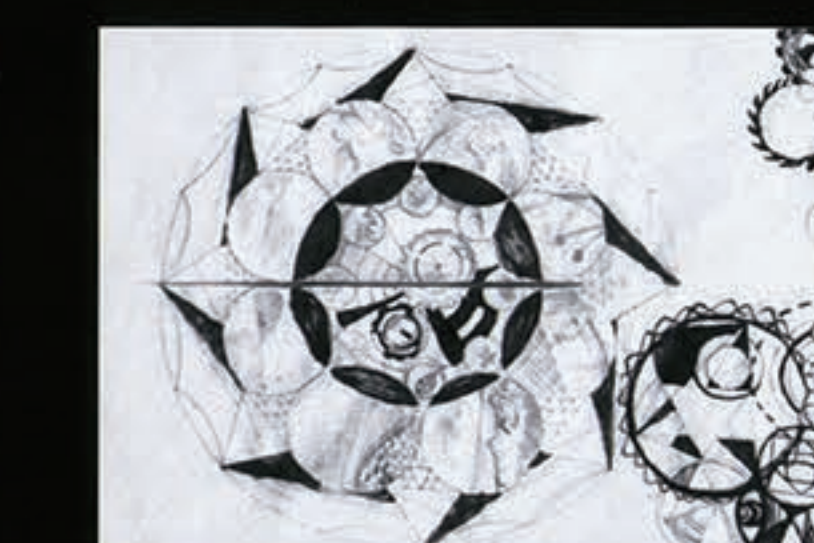
03 - 日常

日常は01と02の二つの時間でできている。今回の計画では、日常という「ありのまま」を描くことで、そこに流れる時間の輪郭をなぞり、愛のかたちのをたどる。

軌道に沿って設けられた見台に座る距離が、その時の二人の愛のかたちを表す。



距離に現れる日々の関係



「月日」として流れる大きな歯車